

特集：2006年度日本数学会出版賞受賞者のことば

齋藤正彦氏 著「線型代数入門」

このたび、拙著『線型代数入門』により、日本数学会出版賞をいただいたことを大変よろこんでいます。この本を書いたのはまだ三十代のときで、私のはじめての本でした。こんど一緒に受賞された佐武一郎さんの『行列と行列式』（当時の題名）はすでに出ていて、私はこれに影響されながら筆を進めました。具体的で手でいじれる行列を線型空間より前においたのも、佐武さんの本のとおりです。

そのころ、友人からの刺戟もあって、私はアルゴリズムというものに関心をもっていました。そこで私は、行列の基本変形にもとづいて階数を厳密に定義しました。さらに、それまでもっぱらクラメールの公式によっていた連立一次方程式論をあらため、かわりに基本変形を使って連立一次方程式の理論と解法の両方を同時に提示することができました。今回の受賞では、この部分がとくに評価されたのではないかとひそかに思っています。

その後このやりかたは序々に浸透し、いまではこのアルゴリズム的方法が主流になってきました。私にとってとても嬉しいことです。

線型代数は、その名前とはうらはらに、本質的には幾何だと思い、それを頭において執筆を進めました。しかし、この意図が実現しているかどうか、ちょっと自信がありません。

この本が出たころ、ある人から何のために書いたのかと聞かれ、私は「十年後の日本の技術水準を上げるためだ」と答えました。若気のいたりと言うべきでしょう。しかし、その後の二十年で日本は高度成長をなしとげたのですから、私の答えもまんざらでたらめではなかったのかもしれない。

今度の受賞をみなさんのおはげましと受けとって、これからも数学に志す人びとのために、よい本を書いていきたいと思えます。

ありがとうございました。

齋藤正彦（東京大学名誉教授）